
目 次

徹底解説 本試験問題シリーズの刊行にあたって

試験制度解説編

1. 情報処理技術者試験と試験制度概要 8
2. 受験ガイド 20
3. 出題範囲と試験の概要 24
4. 平成 23 年度秋期の試験に向けて 28

システムアナリスト試験

平成 20 年度秋期試験 問題と解答・解説編

- 午前問題 H20- 1
- 午後 I 問題 H20- 29
- 午後 II 問題 H20- 43
- 午前問題 解答・解説 H20- 49
- 午後 I 問題 解答・解説 H20- 73
- 午後 I 問題 試験センター発表の解答例 H20- 81
- 午後 II 問題 解答・解説 H20- 85
- 午後 II 問題 試験センター発表の出題趣旨と採点講評 H20- 91

ITストラテジスト試験

平成 21 年度秋期試験 問題と解答・解説編

- 午前 I 問題 H21- 1
- 午前 II 問題 H21- 17
- 午後 I 問題 H21- 31
- 午後 II 問題 H21- 49
- 午前 I 問題 解答・解説 H21- 55
- 午前 II 問題 解答・解説 H21- 70
- 午後 I 問題 解答・解説 H21- 83
- 午後 I 問題 試験センター発表の解答例 H21- 92
- 午後 II 問題 解答・解説 H21- 96
- 午後 II 問題 試験センター発表の出題趣旨と採点講評 H21- 101





ITストラテジスト試験

平成 22 年度秋期試験 問題と解答・解説編

午前Ⅰ問題	H22-	1
午前Ⅱ問題	H22-	17
午後Ⅰ問題	H22-	29
午後Ⅱ問題	H22-	47
午前Ⅰ問題 解答・解説	H22-	53
午前Ⅱ問題 解答・解説	H22-	68
午後Ⅰ問題 解答・解説	H22-	84
午後Ⅰ問題 試験センター発表の解答例	H22-	92
午後Ⅱ問題 解答・解説	H22-	96
午後Ⅱ問題 試験センター発表の出題趣旨と採点講評	H22-	103

<付録>

ITストラテジスト試験	付 -	1
(1) 午前問題出題分析	付 -	2
(2) 午前の出題範囲	付 -	14
(3) 午後Ⅰ問題 予想配点表	付 -	22
(4) 午前解答マークシート	付 -	25

商標表示

各社の登録商標および商標、製品名に対しては、特に注記のない場合でも、これを十分に尊重いたします。

4. 平成 23 年度秋期の試験に向けて

4-1 IT ストラテジスト試験について

新試験制度になって 2 回目の試験でしたが、平成 21 年度秋期試験の内容と大きな違いはなく、ほぼ試験の内容や形式が固まってきたと考えられます。

IT ストラテジスト試験の過去 2 年及び今年度の応募者数、受験者数、合格者数の推移は次の図表 15 のようになりました。

年度	応募者数	受験者数 (受験率)	合格者数 (合格率)
平成 20 年秋	6,797	4,273 (62.9%)	536 (12.5%)
平成 21 年秋	8,322	5,514 (66.3%)	754 (13.7%)
平成 22 年秋	8,236	5,413 (65.7%)	755 (13.9%)

* 平成 20 年以前は、システム・アナリスト試験と上級システムアドミニストレータ試験の合計

図表 15 応募者数・受験者数・合格者数の推移

午前 I 試験は、共通知識として幅広い分野から 30 問が出題されましたが、前回と同様に今回も応用情報技術者試験の 80 問からの抜粋になっていました。

午前 II 試験は、経営戦略マネジメントの問題が減って、企業活動の問題が増えました。また、目新しい用語なども多く少し難しく感じる出題内容でした。

午後 I 試験の出題業種は、問 1 が卸売業、問 2 が製造業、問 3 が情報システム会社で、業種構成としては一番想定されるパターンでした。問 4 は昨年同様、組込みシステムに関する問題でした。内容的には、製品戦略に関する設問が主体で、特に組込みシステムに詳しくなくても、解答できる内容でした。各問とも、問題文のヒントが比較的に見つけやすく解答しやすい問題でした。

午後 II 試験は、問 1 が個別情報システム化構想、問 2 が業務の見直し、問 3 が組込みシステムの製品企画ということで、問 1 が従来のシステムアナリストの分野、問 2 が従来の上級システムアドミニストレータの分野、問 3 が組込みシステムに関する出題でした。内容的には、どの問題もオーソドックスな内容で、比較的書きやすいテーマでした。

午前 II 試験については、最近の目新しい用語からの出題が多く、単に過去問題

を練習しておくというだけでなく、日ごろから新しい社会動向や技術動向に関心をもっておくことが求められる内容でした。午後Ⅰ試験、午後Ⅱ試験については、出題の内容は、おおむねオーソドックスな内容でしたので、ITストラテジストの基本的な考え方をしっかり理解しておくことが重要だったと思います。そのためには、試験センターから公表されているシラパスの内容にも目を通して、ITストラテジストがどのような活動を行うか、具体的なイメージをもっておくことが重要です。

4-2 午前Ⅰ試験

平成 22 年度秋期の午前Ⅰ試験は、出題内容に関して前回試験と同様に、新傾向問題の数は多くありませんでしたが、計算問題や考察が必要な問題が従来よりもやや多く、難易度は前回試験に比べて、少し難しかったのではないかと考えられます。

(新傾向問題)

- 問 7 デュアルライセンスのソフトウェア利用条件
- 問 9 システム状態の視認性
- 問 13 データやサービスを呼び出すためのプロトコル
- 問 16 マッシュアップ
- 問 18 WBS の構成要素であるワークパッケージ
- 問 27 フラッシュメモリを採用する理由

午前Ⅰ試験の分野別出題数は、次の図表 16 のようになりました。

分野	大分類	平成 22 年 春期出題数	平成 22 年 秋期出題数	平成 22 年秋期 分野別出題数
テクノロジー系	基礎理論	3	3	17
	コンピュータシステム	5	5	
	技術要素	7	6	
	開発技術	2	3	
マネジメント系	プロジェクトマネジメント	2	2	5
	サービスマネジメント	3	3	
ストラテジ系	システム戦略	3	3	8
	経営戦略	3	3	
	企業と法務	2	2	
合計		30	30	30

図表 16 年度別分野別出題数

出題内容を見てみると、新傾向問題の内容について詳しく知らない人もいたと思われるが、文章の正誤判定問題がほとんどで解答の絞込みもできることから、難易度は高くないと考えられます。その他の問題は、基本情報技術者試験や応用情報技術者試験で従来から出題されている内容ですが、考える問題が多いため、難しく感じた方が多かったと思われる。基礎知識を確実に理解することが大切です。

また、マネジメント系、ストラテジ系分野では、特に難しい問題はなく、新試験制度になってから出題された問題を理解していれば解答できる内容でした。なお、午前Ⅰ試験免除対象になっている人も、出題された内容は確認しておき、午前Ⅰ試験で要求される知識レベルを常に維持しておきましょう。

4-3 午前Ⅱ試験

平成 22 年度秋期の IT ストラテジスト午前Ⅱ試験の分類別出題数、出題比率は次の図表 17 のようになりました。

大分類	中分類	出題数	出題比率
システム戦略	システム戦略	5	20%
	システム企画	1	4%
経営戦略	経営戦略マネジメント	9	36%
	技術戦略マネジメント	1	4%
	ビジネスインダストリ	4	16%
企業と法務	企業活動	4	16%
	法務	1	4%
合計		25	100%

図表 17 午前Ⅱ試験の分類別出題数・出題比率

前回の平成 21 年度秋期 IT ストラテジスト午前Ⅱ試験と比較すると、システム企画と経営戦略マネジメントの問題が減って、システム戦略、ビジネスインダストリ、企業活動の問題が増えました。前回の試験は、経営戦略マネジメントの問題が一番多かったのですが、今回の試験では、企業活動の問題が多くなり、経営戦略から具体的な業務へ、多少、重点が移った感じがします。また、前回の試験に引き続いて、経営戦略マネジメント中の SECI モデルが出題されました。

システム戦略、システム企画に関しては、NPV の計算式が出題された点が目新しい内容でした。また、前回の試験に引き続いて、共通フレーム 2007 に関する問題が出題されました。共通フレームに関しては、従来からよく出題されてきましたので、確実に理解しておく必要があります。経営戦略マネジメントでは、収穫戦略が目新しい問題でした。そのほかは、比較的定番の問題が多いので、アンゾフやポーターなどのような定番となる経営戦略知識については、一通りの知識を確実に身に付けるようにしてください。技術戦略マネジメントは、今回の試験も 1 題だけの出題でしたので、基本的な事項を押さえておけばよいでしょう。

また、IVR という用語も目新しい問題でした。このような最近の用語についても、押さえておく必要があります。ビジネスインダストリでは、3PL や TOC などの定番の問題がほとんどでしたので、過去問題をしっかり勉強しておけば、ある程度対応は、可能と思われます。企業活動では、TLO 法と SRI が目新しい問題でした。TLO 法は、平成 21 年度秋期の応用情報技術者試験に出題されましたので、試験対策として、応用情報技術者試験の傾向をつかんでおくことも、